

【第64回シオン霊修会】

日程 9月23日(金祝)・24日(土)

テーマ アドナイ・イルエ

みておられる主の前に

会場 蒲田シオン教会

講師 澤村信蔵師

キリスト兄弟団成増教会牧師

本日午後に行う霊修会実行委員会で開催形式(どの範囲で集まるかなど)を決定します。次週の週報でお知らせします。

どのような形であれ、語られるみことばに期待して待ち望みましょう。

【新型コロナウイルス対応】

■9月11日についてもこれまでと同様にコロナ緊急対応と致します。

※礼拝堂での礼拝出席を希望される方は事前の出席予約をお願い致します。

発熱がある、喉が痛い、だるさを感じるなどの症状がいずれか見られる場合には念のため出席は控えてください。

■9月18日以降

通常に戻すことを願っています。コロナ感染拡大の状況を見て判断します。次週の週報でお知らせします。

その血は、あなたがたがいる家の上で、あなたがたのためのしるしとなる。わたしはその血を見て、あなたがたのところを過ぎ越す。わたしがエジプトの地を打つとき、滅ぼす者のわざわいは、あなたがたには起こらない。

出エジプト記12章13節

主がイスラエルの民をエジプトの罪の力から解放するために行った10番目の災いは、家々の長子を滅ぼすことでした。しかし主は脱出の道も備え、子羊の血を家の門柱に塗るなら、災いは過ぎ去ると約束しました。イスラエルは主の約束に信頼してその通りにしたとき救われました。これが過越です。そしてそのことを忘れないようにと過越の祭が制定されました。(14)。

過越は暦の始まりとなりました(2)。暦は1年で一巡します。つまり出発点であり帰るべき処、彼らの原点となったのです。過越はイエス様の十字架の予表です。イエス様の十字架こそ真の過越として私たち

主はこの過越の恵みをイスラエルの共同体に授けました。「会衆」(3,6)とはヘブル語「エーダー」で、単なる抽象的存在としての群衆を現すのでなく「神の民としての共同体」を指します。新約聖書においてはギリシャ語エクレシア「教会」に繋がります。主は過越の子羊を「一族ごと」「家ごと」に分けるように告げました。信仰は一人ではありません。個人主義的であってはけません。主にある教会という共同体で私たちの信仰は育まれます。

シオン教会は、創立者夫妻とお腹の子という家族によってスタートしました。その後、神様の導きと祝福によって神の民としての教会が成長しました。創立記念のこの日、その恵みの輪に自分も加えられていることを覚えて感謝を献げましょう。

創立88周年、おめでとうございます。(泰)

【報告 消息】

・本日、創立立記念ということで教職者にプレゼントがあります。日頃より教職者のためにお祈りくださり感謝致します。これからもよろしくお祈り致します。

・林真光修養生 石岡シオンでの奉仕も無事に終わりました。明日から3日間は夏休みで帰省。一休みです。その後は9月も霊修会奉仕や沼津出向があります。お祈りください。

・教会員関係でコロナに感染したという情報が続いています。主の癒しがあるようにお祈りください。

【小学科ホザナ礼拝・9月聖務】

- 4日 小学科ホザナ礼拝
お話 林修養生
- 11日 小学科礼拝 穂谷牧師
ホザナ礼拝 林修養生
- 18日 小学科ホザナ礼拝
お話 穂谷牧師
- 25日 小学科礼拝 穂谷牧師
ホザナ礼拝 林修養生

9月4日 創立88周年記念礼拝

第1礼拝 9時 荻野牧師 荻野し兄
第2礼拝 11時 (録画放送)

招 詞 イザヤ書43章1節

会衆賛美 聖歌201(1～3節)

会衆賛美 御手の中で(1, 2節)

主の祈り

交 読 詩篇3篇1～8節

礼拝祈祷

使徒信条

聖書朗読 出エジプト記

12章1～14節

説 教 過ぎ越し

荻野泰弘牧師

会衆賛美

聖歌426(1～4節)

献 金

頌 栄 聖歌376

祝 祷

報告

後 奏 感謝祈祷

【招 詞(主の招きのことば)】

招 詞 イザヤ書43章1節

「恐れるな。わたしがあなたを贖ったからだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたは、わたしのもの。」
アーメン

【本日の予定】

■第1礼拝

礼拝映像ネット配信 9時から

■第2礼拝 コロナ禍での特別対応もあり、前半(聖書朗読まで)は

ネット配信を放送します。説教以降は荻野牧師が導きます。

■小学科ホザナ礼拝

対面・オンライン併用

3階 10時半～11時半

お話し 林眞光修養生

■バイブルカフェ 休止

■霊修会実行委員会 15時

(オンライン会議)

【本日の奉仕者】

■第1礼拝

礼拝祈祷 司会者

聖書朗読 司会者

献金1階

献金祈祷 司会者

報告 林修養生

受付

配信 荻野恵行

【次週の礼拝説教】

聖 書

ガラテヤ人への手紙

2章15節～3章1節

説教題 「神の純なる愛」

説教者 田中英 牧師

次週は田中先生が説教です。

田中先生はインマヌエル綜合伝道団の引退教師です。お住まいの関係で長らく蒲田シオンに集っておられます。今年は季節毎に礼拝説教をお願いしています。いつもたいへん感謝です。次週もみことばの解き明かしを待ち望みましょう。

【創立88周年に思う】

シオン・キリスト教会創立88周年を心より喜び、主に感謝を献げます。コロナ禍で兄弟姉妹と一堂に会することができないのは残念です。特に今年は88周年。日本的には「末広がりの八」ということでとてもおめでたい区切りの年。「米寿の祝い」です。蒲田シオンらしく、みんなでおいしいもの食べてお祝いしたいところでした。それができないのは残念でなりません。けれども、だからと言って私たちは主の祝福を失っているわけではありません。むしろここにある語りかけに耳を傾けましょう。

今、教会は弱さに覆われています。

コロナ禍で集まることができないのは言うまでもなく、それに加えて牧師をはじめ多くの兄弟姉妹がコロナに感染しました。病の苦しみはつらく、不安だったでしょう。

子どもたちもコロナ禍で集まることが制限され、こひつじ会、小学科、ホザナ会の在籍者も減少しています。一方で、コロナ禍の間にも、教会を愛し仕えてくださった兄弟姉妹が

次々と召天しています。

長年教会を支えてくださった兄弟姉妹がお歳を重ね、高齢の故に教会に来られなくなることはとても寂しいことです。

会堂は雨漏りなどメンテナンス箇所が出ています。どこかの設備の更新や補修が完了すると、すぐに別のところで次の必要が生じます。費用もかさみ頭の痛いところです。

数の多さや規模の大きさを誇るこの世の価値観で計るなら、こうした教会の現状は厳しく見えます。

しかし、神の世界はそうではありません。ヘンリ・ナウエンは「弱さは実を結ぶ絶好の機会である」と言っています。

主キリストは人となり弱さを身にまとうことで罪人に神の憐れみを現しました。十字架という弱さに徹することで人間を罪から解放し神の御業を完成しました。主は弱さの内力を働かせ、栄光を現したのです。私たちも弱さを知るからこそ、人の痛みに寄り添う者とされます。

互いに支え合うことで神の愛をこの世に証しします。弱いからこそ、神に全く頼り頼む信仰に生きるのです。

時折、自分の無力を言い訳にする人がいますが、それは子どもがすることです。

主の前に自らの弱さを本当に受け入れる人は、主の慈しみを経験し、それ故に、その人のできる範囲で神と人にと仕えます。そこに実が結ばれるのです。

創立者夫妻が蒲田の地に降り立つたとき何を持っていったのでしょうか。大勢の働きの人？多額の資金？十分な活動拠点？否です。「大太鼓一個が伝道の武器。あとは天より賜った地声のみ」と創立者は回顧しています。持っていたのは主への信頼と、救いの喜びに応答する心でした。

主が私たちに弱さを与えるのは、原点に立ち返るようという語りかけではないでしょうか。弱さや無力を嘆くのではなく、「わたしに頼れ」との招きであることを覚え、主への信仰と仕える心を新たにしましょう。